

総務省独立行政法人評価委員会
情報通信・宇宙開発分科会（第14回）

平成21年8月17日

【湊課長補佐】 ただいまから、第14回総務省独立行政法人評価委員会情報通信・宇宙開発分科会を開催いたします。

初めに、本会議の定足数でございますが、委員6名中5名にご出席をいただいております。定足数を満たしております。

また、専門委員の先生方、10名のご出席をいただいております。さらに、本日はNICT（情報通信研究機構）及びJAXA（宇宙航空研究開発機構）からもご参加をいただいております。

次に、前回の当分科会の開催から1年近くが経過しております。その間に新たに総務省独立行政法人評価委員に加わり、本日から当分科会にご参加いただいている委員、専門委員の先生方を私のほうからで恐縮ですが、簡単にご紹介をさせていただきます。この分科会の委員名簿も資料と一緒にお手元に置いておりますので、もしよろしければ、そちらもあわせてご参照いただければと思います。簡単に恐縮ですが、お名前だけご紹介させていただきます。

平成21年2月21日付で東京大学の池内専門委員、名古屋大学の藤井専門委員、本日はご欠席でございますが、東京電機大学の三谷専門委員の3名に就任をいただいております。

さらに、平成21年7月1日付になりますが、茨城大学の梅比良専門委員、慶応義塾大学の園田専門委員、東海大学の水野専門委員、本日はご欠席でございますが、東京理科大学の生越専門委員、日本電信電話株式会社の篠原専門委員の5名に就任をいただいております。皆様、よろしくお願いたします。

さらに、総務省の人事異動に伴い、事務局側の構成員にも変更がありましたので、簡単にご紹介をさせていただきます。技術政策課長として、児玉にかわり奥が就任しております。

【奥技術政策課長】 奥でございます。よろしくお願いいたします。

【湊課長補佐】 宇宙通信政策課長として、岡野にかわり森が就任いたしております。

【森宇宙通信政策課長】 森でございます。よろしくお願いいたします。

【湊課長補佐】 技術政策課企画官として、松井にかわり藤田が着任しております。

【藤田企画官】 藤田と申します。よろしくお願いいたします。

【湊課長補佐】 宇宙通信政策課推進官として、能見にかわり住友が着任しております。

【住友推進官】 住友でございます。よろしくお願いいたします。

【湊課長補佐】 技術政策課課長補佐として、細川にかわり、私、湊が今回より参加させていただきます。お願いいたします。

続きまして、本日の配付資料の確認をさせていただきます。資料の一番上に議事次第とある2枚ものがございます。その2ページ目に配付資料の一覧を記載しております。資料が14-1から14-3、参考資料が14-1から14-5までございますので、この資料の順番に重ねてあると思うんですけども、資料に過不足などございませんでしょうか。一度確認をいただければと思います。お願いいたします。過不足などがあればお申し出ください。よろしいでしょうか。

次に、議事次第の下に資料情分14-1の番号がついた前回議事概要の案がございます。これについて内容をご確認いただきまして、もし誤りなどがございましたら、後日で結構ですので、事務局までご連絡をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

では、これ以降は本日の議事の内容に入りますので、議事の進行は森永分科会長にお願いしたいと思います。森永分科会長、よろしくお願いいたします。

【森永分科会長】 森永でございます。それでは、分科会としての議事を進行させていただきます。

やり方は、最初、NICTさんの評価をさせていただく。それから、JAXAさんの評価をさせていただく。それが終わりました、あと委員の方々のみで意見交換をする時間を設けさせていただいておりますので、大体そういうスケジュールで進めたいと思います。

では、まずNICTさんの評価の取りまとめ状況。実は、部会を先ほどやったところでございますが、また事務局からご説明をお願いしたいと思います。

【湊課長補佐】 では、事務局からご説明をいたします。資料は右上に資料情分14-2とあります平成20年度独立行政法人情報通信研究機構の業務の実績に関する評価調書、こちらをごらんいただければと思います。

1ページめくっていただきまして、初めのところですが、NICT全体についての評価でございますが、平成20年度は18年度から5年間となっている第2期中期目標期間の

3年目、ちょうど中間年度になります。その中で、総体的には20年度の計画及び実施結果は充実した意欲的なものになっていると評価できるとされています。

また、19年度のこの委員会からの提言も踏まえ、新世代ネットワーク技術分野を担当する第1研究部門だけでなく、第2部門、第3部門でも研究開発戦略本部と同等の取り組みが行われ、研究開発戦略を検討、共有するための方策がとられていると評価しております。

その他、研究開発の成果の発信・普及、業務運営の効率化などの点でも全般的には年度計画を達成しているとしております。

一方、業務運営の改善その他の提言という点でございますが、7つのポイントに絞って集約列挙いただいております。クラウドコンピューティングの位置づけ、将来像の検討、海外拠点の役割の見直し、人件費削減という流れの中での将来の人材の確保のための新規採用の継続といった点を挙げていただいております。

1ページめくっていただきまして、主要な観点についての評価でございますが、今ご紹介した全体についての評価をもう少し細かく記載いただいております。幾つかかいつまんでご紹介をいたしますが、業務の効率化という点では、一般管理費や事業費の削減について年度計画を達成しております。また、適切な予算配分という観点では、国の情報通信政策との連携のもとに、新世代ネットワーク技術、ICT安心・安全技術、ユニバーサルコミュニケーション技術の3つの重点領域において、必要性の高い研究開発が遂行されております。

研究開発活動という観点では、この3つの重点領域の中で、フォトニックネットワーク技術に関する研究開発やバイオコミュニケーション技術に関する研究開発などについて、目標を大幅に上回る成果を達成しているとして評価をしております。

また、サービスの提供、普及という点では、ウェブサイトへのアクセスの大幅増や各種標準時のサービスの安定的提供などを高く評価いただいております。論文発信量、知的財産の実施化率という面でも有効な活動は実施されたとしております。

財務管理の面でございますが、独法会計基準等に準拠して、適切に財務諸表等を作成するとともに、ホームページにおける公開、監事や監査法人による監査等も行われているとしております。

人事に係るマネジメントという面ですが、人件費の削減は着実に進めつつ、適切な職場環境確保のための必要な活動が実施されております。

人件費という点では、本日は参考資料となっておりますが、右上に参考情分14-5、一番最後に多分ついていると思うんですけども、こちらに書かれた独立行政法人の給与水準に関する総務省行政管理局からの依頼文、これもおつけしております。この内容についてはここでは詳しく触れることはしませんが、独立行政法人の給与、人件費というのは、世の中からも厳しい視線が注がれているということがございまして、そういう意味でも、NICTにおいて人件費の削減をきちんと行っていただいているということは評価できるのではないかと考えております。

もとの14-2の資料に戻っていただいて続きですけども、今後、男女共同参画という観点から、女性研究者の活躍推進のためのさらに積極的な施策が必要というご指摘をいただいているところでございます。

次のページからが項目別評価総括表ということで、23の項目別の評価が記載されております。個別にはここまでの説明で触れた点もありますけれども、細かい説明は省略させていただきます。全体としては23項目ある中で、AAの評価をいただいたものが6、Aが14、Bが3となっており、総じて高い評価をいただいております。この項目別評価の詳細につきましては、この資料とは別に右上に参考情分14-1とついた平成20年度独立行政法人情報通信研究機構の業務の実績に関する項目別評価調書案ということで、厚い資料もつけさせていただきます。ここでは内容の説明は省かせていただきますが、評価委員、専門委員の先生方に項目別に分担をいただいて、NICTにヒアリングをした上でまとめていただいた評価調書になります。

また、評価とは直接関係はございませんが、本日は参考資料として右上に参考情分14-2とついたNICTの平成20事業年度財務諸表も配付させていただきます。

簡単ですが、事務局からの説明は以上でございます。

【森永分科会長】 ありがとうございます。

先ほど申し上げましたように、この後、委員の先生方だけで意見交換いたしますので、今の評価についての意見交換はそのときをお願いしたいと思います。この場では、NICTさんに対してこれだけ集っておられる委員の方々から、何かご質問とかご意見があればおっしゃっていただきたいと思います。いかがでしょうか。特段ございませんか。

では、私からNICTさんにお伺いしたいのは、初年度の18年度に組織の見直しであるとか、研究部門の整理であるとかいろいろおやりになっている。その中で、研究評価システム、これを外部委員による外部評価、機構の幹部の内部評価、外部評価と内部評価を

あわせて、その結果によって次年度の各研究テーマに対しての資金の分配であるとか費用の分配であるとか、そういうふうに影響させたいという新たなシステムを考案されて進められているんですが、結局、ここの評価というのは、ちょうど学会なんかでやっている研究推進評価とはちょっと違って、あくまでも中期計画どおりにそれが達成されているかどうかと、こういう評価をするところですので、NICTさんのおやりになっている外部評価であろうが内部評価であろうが、そういう視点でおやりになっているのかどうか、その辺をコメントいただけませんか。

【富永NICT理事】 分科会長おっしゃいましたように、私どもとしては、こちらでご評価いただく前に、外部評価と内部評価をやっています。外部評価はピアレビューという形で、外部の専門家の先生方、したがって、これは学会でもその分野分野の最先端のご活躍をされている方々をお願いして評価をいただくという形のピアレビューでございます。そういう意味では、分科会長おっしゃったように、純粋に研究という視点からご評価をいただいているとともに、その評価の手法といたしましては、やはり私ども5年間の中期目標、それに基づく中期計画、これに基づいて研究開発を進めているということもあって、その目標に対してどれだけ達成しているかというのを研究者、学者の目からどう評価していただくかという観点で外部評価をいただいております。

その外部評価をもとに、最終的に内部で次年度の予算等の資源配分を適正に行うために、内部評価を年度末に行っておりまして、これは当然のことながら、全理事で行っております。理事の中には、当然、研究担当理事もおりますれば、総務担当、企画担当、さまざまな目から次年度の計画のためにどういう評価をしたらいいのかという観点からやっております。

以上が私どもNICTにおける評価でございまして、今回は昨年10月に閣議で研究開発の評価に関する大綱的指針が改正されたというのを受けまして、私どもの行いました内部評価、それを自己評価という形でこちらのご評価に供すると、参考に供するという形で提出させていただいております。

以上、私どもの評価の概要でございます。

【森永分科会長】 その外部評価の委員の人数は何人ぐらいですか。

【富永NICT理事】 私どもは大きく分けて3つの重点領域で研究開発をやっておりますが、それぞれの分野で10数名ずつ。結局、例えば新世代ネットワークという1つの分野をとりまして、その分野の中でも幾つかに細分いたしまして、それぞれのグループで

ちゃんと見ていただける分野の先生方に来ていただけるような選定をさせていただいております。基本的には、1つの項目に対して必ず複数の方が評価できるようにという視点で選定させていただいております。

【森永分科会長】 わかりました。ありがとうございました。

ほかの委員の先生、いかがですか。どうぞ。

【土井委員】 もしわかればいいので教えていただきたいのですが、今ご説明いただいたもの、ページ数が振ってないんですが、サービスの普及というところで、事業化率が目標の25%を上回って36%であるということを書いていただいていますけれども、例えばわかればいいんですが、NEDOとかJSTでも同じように事業化を促進するような助成金とかがありますが、そこでの事業化率とかわかれば教えていただけないでしょうか。

【富永NICT理事】 ちょっと申しわけございません。NEDOのほうは数字は今持っておりませんので、また調べてご報告いたします。

【土井委員】 済みません、ありがとうございます。

【森永分科会長】 それでは、ほかの方。よろしゅうございますか。

それでは、これでNICTさんの評価結果の取りまとめは終わりたいと思います。

では、次なんですが、今度はJAXAさんの評価の取りまとめ状況、これについてよろしく願いいたします。

【住友推進官】 それでは、事務局から説明させていただきます。お手元の資料14-3でございます。平成20年度独立行政法人宇宙航空研究開発機構の業務実績に関する評価調書となっておりますが、JAXAの評価に関しましては、文部科学省、総務省の独法評価委員会の双方で評価する形となっております。具体的には、JAXAから文科省に対して業務報告書が提出されまして、その写しが総務省に送付されるということになっておりまして、それに基づいて本評価委員会において評価いただくという形になっております。また、この評価結果を用いまして、文部科学省の評価委員会に対して意見を提出するという流れになってございます。

これまでの審議でございますけれども、JAXAに関しましては、7月2日にJAXA部会を開催いたしまして、JAXAから活動報告をしていただきました。これをもとにしまして、JAXA部会の委員の先生方に個別評価をしていただいております。8月14日にJAXA部会を開きまして、項目別評価、全体的評価（案）の取りまとめとさせてい

ただいたところでございます。個別の評価内容でございますけれども、14-3の資料の一番最後のページを見ていただければと思いますが、総務省として評価する部分が29項目でございます。一番最後の表の部分を見ていただければと思うんですが、その29ページの下の部分なんですが、評価の基準、項目別評価の集計結果の評定の基準にしましては、こちらはS、A、B、C、Fという形にしておりまして、これは総務省の評価とは若干異なる形となっております。こちらは、文部科学省の評価の方法にあわせた結果ということでございます。

項目別の集計結果でございますが、そちらの下表でございますように、全体29項目中、S評価が3つ、A評価が26という形になっております。時間の関係もございまして、個々の評価は省かせていただきまして、一番最初に戻りまして、最初に全体的評価についてご説明させていただきたいと思っております。

全体的評価ですが、まず事業の実施に関しましては、総じて中期目標に向かって順調、もしくは中期目標を上回るペースで実績を上げていると認められるということで、特に、そこでは2つ目のポツであります「だいち」の運用に関しましては、災害に関しまして、中国の四川大地震やミャンマーの洪水など、災害状況の把握や復興活動等、多大な貢献が極めて高く評価されております。

また、「きずな」に関しましては、衛星通信における世界最高速度を達成するなど、研究成果としても高く評価されると評価いただいております。

また、「かぐや」の観測運用を通じまして、世界最先端の月の科学研究を牽引し、大きな国際貢献を果たしていることも極めて高い評価と認めていただいておりますし、日本実験棟（JIM）の運用に関しましては、我が国初の有人宇宙施設「きぼう」の船内実験室等のロボットアームのISSへの取り付けを完了するなど、有人宇宙施設を建設した点は特筆に値するといった評価をいただいております。

続きまして、1枚めくっていただきまして、次の業務の合理化・効率化に関してですが、こちらに関しましては、一般管理費3%、新規追加業務、拡充業務を除く事業費2%の削減を達成するなど、人件費に関しましては、人件費を3.47%削減するなど、所要の進捗を十分に達成したと認められております。

また、評価／プロジェクト管理におきましては、社会の情勢やニーズ、経済的観点の情報を業務実績報告書に記載できるような特記事項欄を設けるなど、事業評価を補強する仕組みを構築しました。また、プロジェクトにおきましては、そのプ

プロジェクトマネジャーから四半期ごとに理事長へ進捗状況や技術課題等を直接報告するなど、経営層での厳格な管理を行っているなど、こちらに関しましても着実な取り組み、全体として良好な業務実績を上げたものと判断していただいております。

また、安全・信頼性に関する評価におきましても、信頼性推進会議におけるJAXA全体の安全性・信頼性の重要事項の方向づけや、安全・信頼性教育・訓練の実施、事故・ふぐあいの低減に向けた取り組みなどを年度計画に従って行うなど、全体として良好な業務実績を上げたものと判断したということになっております。

簡単ではございますが、以上です。

【森永分科会長】 ありがとうございました。

それでは、先ほどと同様、JAXAさんに対して委員の方々からご質問、ご意見がございましたら、お願いしたいと思います。

これ、初年度のようですね。

【住友推進官】 はい。

【森永分科会長】 「きく8号」は、電源に不備があった後、継続してちゃんと今やっているわけですか。どなたか。

【有賀JAXA評価監査室長】 JAXAの評価監査室、有賀でございますが、「きく8号」は、アンテナを展開したものの、たしか受信側の機器にトラブルがありまして、今代替の搭載しているアンテナと地上局の体制を整備しまして、実験は今順調に進んでいるという認識でございます。

【森永分科会長】 電源システムの故障は直ってないわけですね。

【有賀JAXA評価監査室長】 直っておりません。

【森永分科会長】 そのままやっておられるわけね。

【有賀JAXA評価監査室長】 はい。そのままです。

【森永分科会長】 そのままやってもデータはとれるわけですね。

【有賀JAXA評価監査室長】 そうです。

【森永分科会長】 そうですか。それから、NICTさんのほうにもおつくりになったと思うけれども、プロジェクトマネジャーの役はどういうことをしておられますか。

【瀬山JAXA理事】 プロジェクトマネジャーの役割でございますか。一定規模の事業になりますと、プロジェクトという格好で認知いたしますけれども、その段階でそのプロジェクトについて基本的には一切の責任を有する指揮者ということで、プロジェクトマ

ネジャーを指名いたします。したがって、プロジェクトマネジャーは、その事業計画から人員の配置、もしくは予算等々について、一義的に責任を持つということでございます。

【森永分科会長】 そうすると、少なくとも1年間ぐらいは変わらないわけね、顔ぶれは。

【瀬山 JAXA 理事】 ええ。基本的には、そのプロジェクト全体、1人でやるということですよ。

【森永分科会長】 5年間かかるときは、その方が5年間ずっと。

【瀬山 JAXA 理事】 ええ、もちろん時には変わることもございますけれども、基本的にはお一人が最後まで仕上げさせていただくということで、最近プロジェクトの期間をなるべく短くするようにしてございますから、1人ででき上がるようにやっていただくというのが多分プロジェクトマネジャーとしてきっちり仕事をやっていく上で重要なことだと思っておりますので。

【森永分科会長】 ちなみに何人ぐらい今いらっしゃるんですか。

【瀬山 JAXA 理事】 プロジェクトごとにいますから、20人近くプロジェクトマネジャーがおります。プロジェクトマネジャー、だれでもなれるわけじゃなくて、プロジェクトマネジャー候補みたいなものを既にインタビュー等を通じて用意しておいて、その中から一定の能力ある方をプロジェクトマネジャーに指名するというので、比較的厳格な指名の仕方、審査の仕方をやっております。

【森永分科会長】 わかりました。ありがとうございました。

ほか、委員の方々、よろしゅうございますか。よろしいですか。

それでは、JAXAさんの評価、取り組み方の説明はこれで終了したいと思います。この後、委員のみで会合を持ちますので、NICTさんとJAXAさんの関係者の方々、どうもありがとうございました。ご退席いただいて結構です。

(NICT・JAXA退席)

【森永分科会長】 それでは、今させていただいたように、NICTさんの評価とJAXAさんの評価の説明は終わったわけです。この2つをまとめまして、委員の方々からはご意見をちょうだいしたいなと。で、意見交換をさせていただきたいなと思います。

何からでも結構なんでございますが、どうでしょうか。それぞれの評価内容、これでもよろしゅうございますか。ちょっとSがついたり、こちら側はダブルAとか表現が少し違いますけれども、内容的には全く同じで問題ないかとは思いますが。

どうぞ。

【土井委員】 済みません、細かいことで恐縮ですが、NICTのほうで、14-2の全体評価の1枚目の(5)というところに、人事施策において女性研究者の活躍推進と取り上げられているのですが、対応するものとして参考情分14-1ですか、この14ページの(ウ)というところを拝見いたしますと……。

【森永分科会長】 14のどこでしたっけ。

【土井委員】 (ウ)、一番下のところですね。そこの右側のところに書かれているのが、研究者というよりは女性職員ということで、例えば429名中、女性職員が44名、10.23%であるという取り上げられ方をしていて、こちらでは女性職員。全体では女性研究者となっているので、少し食い違いがあるのかなと。これを見ると、今の14ページのところに例えば女性研究者は何%なのかとかいう数字があると、先ほどの5割増しでしたっけ。この女性の比率は職員の……。でも、研究系ですよ。ちょっと食い違いが、細かいことですが、気になりましたということなんです。

【森永分科会長】 今の、どういうふうにご説明すればよろしいかな。内訳ですか。女性職員となっているのと、女性研究者となっている。

【土井委員】 参考の資料では女性職員のパーセンテージが書いてあって、中期目標は研究者の採用の女性比率を5割増しにすると書かれていて、実際にこちらの全体のところでは、女性研究者の活躍を推進しますと書かれていて、何となくそれぞれ言ってるのがちょっとずつ違っていますというのが気になりますという、ただそれだけですが。

【森永分科会長】 わかりました。NICTさんのあれによると、女性研究者という意味では、20年度の中期でも2人ほどだったかな。そんなことがありましたね。

【湊課長補佐】 研究者と職員という意味で、言葉に食い違いがあるというご指摘はもっともですので、これから記載の仕方については気をつけるようにしたいということがまず初めの話なんですけれども、ここでは職員という形で、研究者も含めて書いてしまっているんで、研究者だけにフォーカスしたときに、それがわかりにくくなっているというところで、そこは改めて成果をチェックするときにはNICTと話をしたいと思います。

実際、ここに出てくる、例えば14ページの記載の中では、女性職員の話が書いてある中で、パーマnent職員という言い方をしているんですけども、7名を採ったうち、これは研究者の話をしていて、女性は1名入っていますという説明も中には入っています。なので、研究職の職員なのか、一般の事務をやる職員なのかというところの切り分けがわ

かりにくくなっていると思いますので、その辺については、今後、フォローアップをしていく上ではきちんと切り分けてやっていきたいと思います。

【土井委員】 あと、そういう意味では、目標のほうは実績から5割以上増すとなっているので、それに近づいたかどうかというのがこの右側のほうの表現に入っているとわかりやすいという意味ではわかりやすいのかなと思いました。

【湊課長補佐】 ご指摘のとおりだと思います。

【土井委員】 別にわざわざ変えるほどの話ではないと思うのですが、ただそれだけです。済みません、細かいことで。

【森永分科会長】 ありがとうございます。ほか、どうでしょう。どうぞ。

【藤井専門委員】 N I C TとJ A X Aの判断、評価ってある程度統一的去るというのが方針なんでしょうか。

【森永分科会長】 統一ですか。

【藤井専門委員】 ええ。というのは、今初めて見たのでちょっと間違いかもしれませんが、J A X Aのほうの個別のものを見てみますと、中期が達成されたという記述だけではなくて、その後に開発計画のおくれがあるとか、そういうことが書いてあるけれども、A評価になっているという記述が幾つかあると思うんですけども、それはどういう判断でやられているかということなんですけれども。

【森永分科会長】 私が認識している限りは、2つを統一して評価する、あるいは評価基準をつくってとか、それはないと思います。それぞれのお立場でやっておられると思うんですけども、ちょっとJ A X Aさんの高畑委員、その辺はいかがですか。そういうことは意識してやってませんでしょね。

【高畑分科会長代理】 J A X Aには関しては、文科省との対応がかなりあります。統一の意味がよくわかりませんが。

【藤井専門委員】 例えば固体ロケットシステムとか大学院教育のあたりの記述を見ると、非常にプラスの面と少しネガティブな面も書かれているように思うんですけども、それを勘案して中期計画を上回って実施されているという判断をされているわけですよ。ですから、よいほうをよくとると、よりとるという方向性で評価されていると考えてよろしいでしょうか。

【高畑分科会長代理】 例えば、どうしてBではないかということですね。

【藤井専門委員】 そうは言ってませんけれども。

【高畑分科会長代理】 AとかBとかの判断基準ですが、年度毎で考えるというよりも、5年後にどうなるかと考えます。このペースでいくと、5年後には目標を達成できるかどうか。そのような判断で評価をしております。年度毎でという考え方は持っておりません。そこで、言葉的には、少し遅れ気味という表現になっていると思うんですが、このペースでいけば5年後には満足するかどうか。そのような評価を行っております。

この件は、JAXAの一番後ろの評価の方法で書かれております。例えば当該年度の研究開発の実施により、中期計画の達成度が100%以上になると判断される場合、Aをつけていますが、あくまでも中期目標に向かってどのようなペースで実施しているかということの評価しております。さらに、ネガティブなことが書いてありますが、JAXAさんに対して、ここにもっと力を入れてくださいという意味で書いてあり、それが必ずしも評定に結びついているとは限らないということです。

【平田委員】 今回の補足なんですけれども、私も高畑先生と同じ、会長と同じなんですけれども、基本的には達成したかどうか、初年度でやる。ただ、初年度でやるがゆえに、その後、今後、こういうことをもっとやってほしいなという要望とか期待、それをなるべく入れるような形でまとめさせていただいたということで、それはあくまでもまずは達成しているということを前面に出して、その後、初年度でやることを意識して、そういうことをあえて記述したというところもいろいろございましたね。

【森永分科会長】 そうですね。統一はしてないけれども、評価の委員の先生方の見方は大体同じだと思うんですね。NICTも中期目標として、いわゆる5年ですから、その過程での見方もしなければいけないし、それから単年度も見ておられるようですね、評価委員の先生方は。

ほか、どうでしょうか。

【高畑分科会長代理】 統一されていないという話でいくと、大項目自体が統一されておられません。そこまで統一するという考えは多分ないと思います。

【森永分科会長】 かえってまずいことになりますね。

どうぞ。

【高畑分科会長代理】 NICTの評価に関して、先ほど土井委員がおっしゃったところですが、事業化率が非常に高い値になっており、いろいろな助成の形態があると思いますが、38%とか30%、60%という数値になっています。事業化に関しては、研究助成

金が終了してから何年かして事業化されているかどうかということはわかります。カウントで、助成中の研究開発における事業化はなかなか難しいと思います。例えば中期目標期間、前の中期目標期間も含めての話になっているのでしょうか。その辺がわからないので教えていただきたいと思います。

【森永分科会長】 要するに、累積となるかということですね。

【高畑分科会長代理】 追跡調査をしてカウントされているのでしょうか。多分、そうだと思います。

【森永分科会長】 そうです。20年度だけでというのは、それはなかなかありませんから。だと思えますけれども。事務局、何かわかりますか。

【湊課長補佐】 20年度単年ではないということは確かなんですけども、いつからものをカウントしているかというのはちょっとすぐにはわからないので、済みません、後日確認でよろしいでしょうか。

【高畑分科会長代理】 例えば、何件中何件という数値が、非常に高い値になっております。逆に心配なことは、先が見えている研究に助成しているからであり、萌芽的な研究に助成していないのではないかという感じも受けるのですが、その辺は如何でしょうか。

さらに、事業化といっても、例えば技術10個のうち1個の技術を事業化しても事業化と言っているのかもしれませんが。その辺はなかなか難しいところですが。

【湊課長補佐】 件数などの数字も、済みません、手元に事務局側では持っていないくて、場合によってはNICTがいると答えられたかもしれないんですけども、こちらでは今手元にないものですから、申しわけございません。

【根元委員】 あれはたしか企業……。おっしゃってたのは何でしたか。企業化を前提でお金を上げるんですよ。研究開発が終わって翌年度から売上金を返せというカテゴリーがあって、たしか事業率は結構高いような基金になっているはずなんです。民間基盤育成何とかという。

【土井委員】 基盤促進ですか。

【根元委員】 ええ、多分それだと思うんですが。違うんですか。それとも、NICT独自にやっているんですか、企業化って。

【高畑分科会長代理】 昔のTAOの仕組みですか。

【根元委員】 そうそう。のようにとったんですけども、違うのか。

【高畑分科会長代理】 基盤技術研究促進センターとは、違うのではないのでしょうか？

【根元委員】 今も続いてやっている、民間基盤というのは。

【森永分科会長】 それも続けているんですよ。

【根元委員】 それを少しモディファイして、続いてやっているんです。それだと思っ
たんですよ。

【高畑分科会長代理】 それが60%になっているのですか。

【根元委員】 ですから、企業化できないとお金は助成できないというのが最初からあ
るから。大体5年ぐらい、たしか計画で研究するんじゃないかでしたっけ。

【森永分科会長】 正確なところ、今すぐにはわかりづらいので、調べさせていただき
ましょう。

【高畑分科会長代理】 逆にすばらしい値であると思いますので。

【森永分科会長】 どういうところから出た値なのかとか。

【高畑分科会長代理】 聞かれたときにちゃんと答えられる方がよいと思います。

【森永分科会長】 ほか、いかがでしょうか。

どうぞ。

【土井委員】 1点よろしいですか。JAXAですが、9番目の資料の項目別評価の
ところで、LNG推進系がAとなっているんですが、私、実はJAXAの文科省側も参加さ
せていただいているのですが、ちょっとここ、JAXAにもご確認いただきたいと思うの
ですが、その右側に書いていただいているところの上から3行目のところに、宇宙開発委
員会にて審議されているが、そこに調査・検討結果や経費の見通しなどの情報を提出して
いるとなっているのですが、文科省側ではこれがちゃんと提出されていないからというこ
とで、実は評価が、たしかこの項目はBになったんじゃないかと思うんですが。ごめんな
さい、私、自分が担当した項目ばかり一生懸命読んで、ほかの方の、総務省側の項目を
ちゃんと読んでなかったんで、ここをちょっと見落としてしまっていたのですが、ちょっ
とここはご確認いただいたほうがいいのかもしいです。

【森永分科会長】 それはご担当の委員の方がおっしゃってるんですから、確認をさせ
ていただきますか。今すぐわかりますか。

どうぞ。

【水野専門委員】 宇宙開発委員会の推進部会というところでこのLNGの事業化とい
いますか、研究開発のことを審議しております。そこで具体的に幾ら幾らという話ではな
いんですけれども、事業化に向けた見通し等について議論されておまして、経費の見通

しというか、ある程度、報告されています。結果、まだ継続審議中ですが、そのような状況にあるかなと思っております。

【土井委員】　　そうですか。文科省側では一度出しているけれども、それに対してもう一度出してほしいという要望に対して出されていないと意見が出ていたので、ちょっとそこだけ。

【水野専門委員】　　多分それは正しいと思います。

【土井委員】　　ということなので。一度出したのは事実ですが、その次、もう一度出してほしいと言われたことに対して出していないというのも事実なので。

【水野専門委員】　　事務局のほうでご確認いただければと。

【土井委員】　　済みません、私がちゃんと全部読んでればよかったんですけども、総務省側、自分が担当したところしか読まなかったの、済みません。

【森永分科会長】　　この場はそういう意見交換の場ですから、どうぞご遠慮なく。

ほか、いかがでしょうか。何か。ここは漏れているというところもあろうかと思いますが、よろしいですか。

それでは、今ご意見にも出ましたように、確認をすべきこともございます。それも踏まえまして、案を修正というんじゃないですね。確認ですか。

【土井委員】　　ええ、確認。

【森永分科会長】　　これをさせていただいて、それを今度8月27日に評価委員会がございますので、それには上げますが、だから、文章として直接それがあらわれなくてもよろしゅうございますか。確認の作業はいたしますので。ということで、やり方については、済みませんが、私にご一任いただければありがたいのでございます。ありがとうございます。

それでは、これで意見交換は終わりたいと思いますが、委員の方々、よろしゅうございますか。

では、ありがとうございました。

それでは、最後に、その他のところで、私から少々ご報告を申し上げることがございます。つい先ほどですが、NICT部会をしたのでございますけれども、そこで議題に上げられたのがご退任になった役員の業績勘案率のことでございました。その審議をいたしまして、平成20年3月に退職されたNICTの理事、加藤さん、理事なんですけれども、この業績勘案率を0.9とする案を部会としては決定いたしました。これを評価委員

会を通じて今度は政独委と言っておるんですけども、政策評価独立行政法人評価委員会というのがございまして、そこで二次評価をするということになりますので、これに上げていきたいと思っておりますので、ご了承いただければ幸いです。

以上、何かほかにございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、事務局から今後のスケジュール等について、お願いしたいと思います。

【湊課長補佐】 では、事務局から申し上げます。まず、当分科会における平成20事業年度業務実績の評価作業につきましてはこれをもって終了となります。分科会及び部会を通じて評価作業に取り組んでいただきました委員の皆様、事務局を代表して総括審議官の河内からごあいさつを申し上げます。

【河内官房総括審議官】 総務省総括審議官の河内でございます。本日はNICTとJAXAの平成20年度の業務実績の評価につきまして、お取りまとめいただきまして大変ありがとうございます。構成員の皆様方には非常にご多忙の中、4カ月間という長い間、NICTあるいはJAXAに対してヒアリングを実施し、膨大な評価調査の作成を行っていただきました。心より感謝申し上げます。

今回ちょうどいたしました評価結果につきましては、この両法人の業務運営、あるいは組織運営に役立てていただくことはもちろんでございますけれども、私ども総務省における両法人に対する監督という面、指導面にも大いに反映させていただきたいと考えております。

今回の評価、平成20年度におきましては、今ご審議いただきましたように、両法人ともに全体的に中期目標、中期計画に沿っておおむね順調という評価がなされたと認識しておりますけれども、独立行政法人全体に対する世の中と申しますか、マスコミ等の評価というのは非常に厳しいものがございまして、そういう中でこの両方の法人につきましては十分な成果を上げ、情報通信分野あるいは宇宙開発の分野において、この業務を担う独立行政法人として大いにその役割を果たして、国民の期待にこたえていただくよう期待したいと思いますし、私どももそういうふうに取り組んでまいりたいと考えております。

また、平成23年度から次期の中期計画、これはNICTのものでございますし、総合科学技術会議で科学技術全体としての第4期の科学技術基本計画、こういった方向に向けての議論が始まるわけございまして、ただいまいただきました評価結果もそういった次期に向けての中期目標等の作成等に反映していけるように努めてまいりたいと考えております。

最後に、構成員の皆様方に、今回の評価のために大変精力的にお取り組みいただきました点、改めて感謝申し上げます、ごあいさつにさせていただきます。どうもありがとうございました。

【湊課長補佐】 私のほうから今後のスケジュールについてご説明させていただきます。

本日取りまとめていただいた20年度の業務実績の評価結果につきましては、先ほど分科会長からお話がありましたように、この後、今月、8月27日、木曜日、来週の木曜日になりますが、こちらで総務省独立行政法人評価委員会が開催される予定となっております、そこでNICTにつきましては森永分科会長から、JAXAにつきましては高畑分科会長代理からそれぞれご報告をいただく予定としております。

また、次回以降の分科会につきましては、特段の事案がない限り、来年度以降に行う平成21事業年度の業務実績の評価作業の際に開催させていただく予定となりますが、詳しくは開催が決まりましたら、事務局からご案内をさせていただきます。

最後に、本日の会議資料でございますが、もちろんそのままお持ち帰りいただいても結構なんですけれども、非常に分量があつて重さもございますので、終了後、そのまま机の上に置いておいていただければ、紙が別途ついていると思いますが、そちらにお名前と郵送のご希望をお書きいただければ、事務局から別途郵送させていただくということでやらせていただきたいと思いますので、よろしければそのようにしていただければと思います。

事務局からは以上でございます。

【森永分科会長】 ありがとうございます。

それでは、当分科会、これで終了させていただきます。皆様、ありがとうございました。